

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	中国語第一		
英文授業科目名	Elementary Chinese I		
開講年度	2008年度	開講年次	1年次
開講学期	前学期	開講コース・課程	夜間主コース
授業の方法	演習	単位数	1
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化基礎科目 I I		
開講学科・専攻	情報工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科		
担当教官名	孫 月鷲		
居室	非常勤講師		

公開E-Mail	授業関連Webページ
ajioka19540503@yahoo.co.jp	

【主題および達成目標】
本授業は中国語の基礎を勉強する人を対象に、中国語の正しい発音、基本文法を習得することを目的とする。まず中国語を正しく発音でき、同時に正確に聞き取れるように訓練する。その上に基礎文法を学び、会話練習や作文などを平行して行うことを通じて中国語の基礎を築く。

【前もって履修しておくべき科目】
特になし。

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
選択中国語第一

【教科書等】
教科書：範建明『身につく中国語コミュニケーション—入門編』隆美出版
参考書：孫猛・王曙光『実用中国語ハンドブック』、『中日辞典』など。隆美出版

電気通信大学 平成20年度シラバス

【授業内容とその進め方】

テキストに従って、2週間で1課を終えるように進めたいと考えている。前期の授業では主に
A 中国語の発音、アクセントの訓練を行う。
B 年月日、曜日、時刻、家族構成、買い物など簡単な生活用語を身につけるように指導する。
C 人称代名詞、指示代名詞、名詞述語文、動詞述語文、形容詞述語文など基本文法を勉強する。
D 各課終了ごとにテキストについての「宿題」の答え合わせをし、提出してもらう。

後期の授業は「中国語第二」である。主に動作の進行、比較の表現、動作の完了、可能と使役の表現などを中国語の基礎文法を勉強し、習った内容を中国語で読める、聞ける、書ける、話せるように指導する。詳細は「中国語第二」を参照。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

授業中の問題に対する回答、小テストの成績、出席状況、期末テストなどを総合して評価する。

【オフィスアワー：授業相談】

授業の前後に教室で行う。

【学生へのメッセージ】

積極的な学習する態度が望ましい。発音の段階にできるだけ欠席しないように心がけて欲しい。また、授業日以外の日にも予習、復習してほしい。

【その他】

なし。